

平成26年度審議事項

審議年月日	平成26年5月20日	
申請者	生体機能制御解析室員	石尾 晶代
代表者	生体機能制御解析室員	石尾 晶代
共同担当者	客員研究員	村岡 慶裕 外2名
14-01	三次元磁気式位置計測を用いた片麻痺歩行分析法に関する検討	
研究の概要	<p>日常生活に多大な不利益をもたらす歩行障害は、リハビリテーション医療における重要な課題である。現在の臨床現場では、視診やストップウォッチを用いた簡便な歩行評価が主流であるが、更なる歩行障害に対する治療法の発展にむけて、客観的かつ定量的な歩行評価法の臨床導入が望まれている。本研究は、健常者での実験で測定精度を検証済みであるが、本格的な臨床導入にむけて、脳卒中患者の片麻痺歩行の評価法としての有用性を検討する。</p>	
判定	条件付承認	指摘事を修正のうえ、平成26年6月9日承認

審議年月日	平成26年7月15日	
申請者	理学療法士	鈴木 基志
代表者	理学療法士	鈴木 基志
共同担当者	理学療法士	栗原 淳 外5名
14-02	脊髄損傷者に対する体育療法の効果	
研究の概要	<p>当院では、退院後により応用的な車椅子駆動が必要と思われた脊髄損傷患者に対してGTを行っており、先行研究において優位な改善が見られているが、実施期間を2ヶ月として、先行研究と同様の効果が得られるかどうか分析し、その結果を元に今後のGTの期間、プログラムについて再考察していく。</p>	
判定	継続審議	指摘事項を修正のうえ、平成26年9月16日承認

審議年月日	平成26年7月15日	
申請者	看護師	森田 和隆
代表者	看護師	森田 和隆
共同担当者	看護師	石上 久 外2名
14-03	脊髄損傷患者の排便コントロールにおけるココアの有用性	
研究の概要	<p>高齢者を対象としたココアの飲用の効果については、先行研究で実証されているが脊髄損傷患者では行われていないため、脊髄損傷患者へのココアの飲用についても効果があるのか明らかにしていくことを目的とする。</p>	
判定	条件付承認	指摘事を修正のうえ、平成26年8月11日承認

平成26年度審議事項

審議年月日	平成26年8月19日	
申請者	看護師	有澤 智代
代表者	看護師	有澤 智代
共同担当者	看護師	小形 正美 外3名
14-04	保存療法を受ける神経損傷を伴わない脊椎圧迫骨折患者の入院期間を延長させる要因	
研究の概要	<p>脊椎圧迫骨折患者において、入院診療計画書を基に患者に説明している入院期間を延長させている要因を明らかにする。また、看護師の経験年数に関わらず、入院時から早期に患者の個別性に合わせた退院調整ができるように過去のカルテを基に入院期間を延長させる要因を分析、検証することにより、入院診療計画書通りの入院期間で患者が退院できるような方策を見出すことを目的とする。</p>	
判定	継続審議	指摘事項を修正のうえ、平成26年9月16日承認

審議年月日	平成26年8月19日	
申請者	看護師	久保田 麻由子
代表者	看護師	久保田 麻由子
共同担当者	看護師	高橋 美樹 外2名
14-05	脊椎手術時の4点支持器と腹臥位枕（フォームヘッドレストR）の適切な高さの検証	
研究の概要	<p>4点支持器に対し腹臥位枕の高さが高くなることで顔面にかかる圧が高くなることが考えられ、頸部が過度に前屈すると、前額部にかかる圧が高くなり、後屈すると下顎部にかかる圧が高くなる。更に頸椎にかかる負担が多くなり患者にとって安楽な体位にならない。そのため、病院で使用している腹臥位枕と4点支持器の高さの差と圧との関連性と安楽な体位かどうか調査することを目的とする。</p>	
判定	承認	

審議年月日	平成26年8月19日	
申請者	看護師	市村 知子
代表者	看護師	市村 知子
共同担当者	看護師	岡本 詩織 外4名
14-06	地域包括ケア病棟における病棟看護師の退院調整に対する意識調査－退院調整ワークシートの見直しとカンファレンスの充実を通して－	
研究の概要	<p>入院早期からの退院調整の必要性や病棟看護師の役割の重要性については、様々な先行研究にて報告されているが、地域包括ケア病棟における退院調整に対する看護師の意識についての研究は報告されていない。そこで地域包括ケア病棟移行後に病棟看護師が感じている意識や思いについて実態を把握し、カンファレンスのあり方や退院調整ワークシートの見直しを行い、その後の看護師の意識の変化を明らかにすることを目的として研究を行いたい。</p>	
判定	条件付承認	指摘事を修正のうえ、平成26年9月11日承認

平成26年度審議事項

審議年月日	平成26年9月16日	
申請者	整形外科医師	三宅 敦
代表者	整形外科医師	三宅 敦
共同担当者	整形外科医長	金子 慎二郎 外2名
14-07	コンドリアーゼ (SI-6603) 試験終了後の予後調査	
研究の概要	国内で実施されたコンドリアーゼ (SI-6603) を椎間板内投与された腰椎椎間板ヘルニア患者を対象に治験薬投与後の腰椎手術実施の有無、腰椎の不安定性の有無、腰椎疾患による臨床症状及び機能障害を調査し、コンドリアーゼ投与患者の長期予後を評価することを目的とする。	
判定	条件付承認	指摘事を修正のうえ、平成26年9月22日承認

審議年月日	平成26年9月16日	
申請者	看護師	丸山 恵子
代表者	看護師	丸山 恵子
共同担当者	看護師	酒井 美樹 外3名
14-08	回復期リハビリテーション病棟における脳卒中患者のFIM(機能的自立度評価表)の変化と家族の介護負担感の関係	
研究の概要	FIMの推移と家族の負担感との関係を明らかにすることで、家族が不安を感じやすい時期を把握し、より具体的で効果的な家族の精神的な支援者となれるような関わりが出来るのではないかと考え本研究を行うこととした。	
判定	承認	

審議年月日	平成26年9月16日	
申請者	看護師	高橋 智香
代表者	看護師	高橋 智香
共同担当者	看護師	圓谷 綾子 外5名
14-09	全身麻酔下で脊椎手術を受けた整形外科患者における、術後せん妄の対策とその効果ーせん妄ケアプランを用いてー	
研究の概要	昨年の研究結果を踏まえ、せん妄と関連がある6項目について術直後からせん妄が改善されるまでの観察と対策を実施する。その結果、せん妄が発生した場合は、その関わりによってルート類の自己抜去・移植骨の脱転・転倒・転落・安静不履行などのせん妄による事故は防ぐことができたのか、せん妄の期間が短縮したのか、又はせん妄の発件数自体が減少したのかという事を前年度の研究データと比較・明らかにし、術後の安全・安楽な看護の提供に繋げていくことを目的とする。	
判定	継続審議	指摘事を修正のうえ、平成26年10月21日承認

平成26年度審議事項

審議年月日	平成26年10月21日	
申請者	内科医長	岡田 泰昌
代表者	内科医長	岡田 泰昌
共同担当者	内科医師	片寄 智規
14-10	ステロイド性骨粗鬆症に対するミノドロン酸水和物の臨床的有用性に関する検討	
研究の概要	ステロイド性骨粗鬆症の管理と治療ガイドライン（2004年度版）で治療推奨薬とされているアルファカルシドールを比較対照としてミノドロン酸水和物のステロイド性骨粗鬆症に対する臨床的有効性を検証する。	
判定	条件付承認	指摘事を修正のうえ、平成26年11月11日承認

審議年月日	平成26年10月21日	
申請者	医療安全係長	齋藤 美晴
代表者	医療安全係長	齋藤 美晴
共同担当者	看護師長	佐藤 みずほ 他2名
14-11	A病院看護師の安全学習尺度と自立性尺度の関連について	
研究の概要	A病院の看護師の安全学習尺度と自立性尺度の現状及び看護管理者の関わりを調査し、今後の安全学習の取り組みの示唆を得ることを目的とする。これらの結果から、看護管理者が医療安全学習について、どの様に取り組むべきか明らかにし、教育体制構築の一助にしていきたいと考える。	
判定	条件付承認	指摘事を修正のうえ、平成27年1月6日承認

審議年月日	平成26年10月21日	
申請者	副看護師長	佐々木 由美子
代表者	副看護師長	佐々木 由美子
共同担当者	看護師長	清水 弘子 他4名
14-12	短下肢装具使用患者の皮膚障害発生要因の検討	
研究の概要	A病院における装具外来受診患者のカルテから情報を分析し、短下肢装具使用患者の皮膚障害発生要因を明確にすることを目的とする。	
判定	承認	

平成26年度審議事項

審議年月日	平成26年10月21日	
申請者	看護師長	宮川 幸子
代表者	看護師長	宮川 幸子
共同担当者	看護師長	伊藤 佐代 他3名
14-13	実務経験段階を超えた合同研修の効果	
研究の概要	今回の研究では、この相乗効果の内容を分析し、実際にどのような場面からこの相乗効果が発生しているのか、どのような働きかけが有効であるのかを検証し、今後学習効果の高い研修の企画に繋がられるようにすることを目的とする。	
判定	条件付承認	指摘事を修正のうえ、平成26年11月11日承認

審議年月日	平成26年10月21日	
申請者	リハビリテーション科医長	植村 修
代表者	リハビリテーション科医長	植村 修
共同担当者	リハビリテーション科医師	宇内 景
14-14	頸椎損傷患者における中枢性疼痛の評価	
研究の概要	本研究は、疼痛や異常知覚の出現や増悪などの推移と合わせてEPTsやdSEPs評価することで痛みに伴う神経生理学的な変化の評価や、有効な治療選択、更にその長期的効果としてのADLへの改善に与える影響について検討を行うことを目的とする。	
判定	承認	

審議年月日	平成26年12月16日	
申請者	看護師	田中 素子
代表者	看護師	田中 素子
共同担当者	看護師	小山 美咲 他2名
14-15	脊髄損傷患者における体圧分散マットレス変更時の実態調査～アンケート調査による要因の分析～	
研究の概要	脊髄損傷患者におけるマットレス選択時の看護師の思考過程及び観察の視点を調査し、マットレス選択時の指標となる因子を抽出することで、脊髄損傷患者のマットレス調整について、自立度の向上やADL拡大を目指す脊髄損傷患者の療養経過に合わせた環境調整ができるのではないかと考えた。	
判定	継続審議	指摘事を修正のうえ、平成27年3月13日承認

平成26年度審議事項

審議年月日	平成27年1月20日	
申請者	統括診療部長	谷戸 祥之
代表者	統括診療部長	谷戸 祥之
共同担当者	院長	朝妻 孝仁 他6名
14-16	脊椎椎弓根スクリューの固定強度の検討	
研究の概要	<p>腰椎手術患者を対象に術中にスクリューを挿入する際のトルクに着目し、術前後に画像評価を行いスクリューの刺入法・骨質によるトルクの相違を検討、同時に臨床所見との関連を検討することを目的とする。</p>	
判定	条件付承認	指摘事を修正のうえ、平成27年1月26日承認

審議年月日	平成27年1月20日	
申請者	診療情報管理士	藪下 千恵美
代表者	診療情報管理士	藪下 千恵美
共同担当者	統括診療部長	谷戸 祥之
14-17	整形外科専門病院における退院時要約の質的向上と改善後の検証ー退院時要約記載要領の見直しと診療情報提供書としての活用への試みー	
研究の概要	<p>退院時要約を充実させることは、当院の職員のみならず地域の関係者も含めたチーム医療の共通媒体として多いに役立つものと考え。また、退院時要約内容を診療情報提供書として活用することで、他施設間との情報に役立てるためにも、退院時要約記載マニュアルを見直し記載内容の改善を図ることを目的とする。</p>	
判定	条件付承認	指摘事を修正のうえ、平成27年3月31日承認

審議年月日	平成27年2月17日	
申請者	リハビリテーション科医長	植村 修
代表者	リハビリテーション科医長	植村 修
共同担当者	済生会神奈川病院 副部長	森 俊樹
14-18	RHIを用いたMirror movement治療の試み	
研究の概要	<p>Mirror movementが中枢神経系の異常を背景にした`学習された誤使用`であるとの仮説を立て、その仮説をもとにRubber Hand Illusion (RHI)を用いた治療法を公安した。本研究では、この仮説と治療法の妥当性を検討する。</p>	
判定	条件付承認	指摘事を修正のうえ、平成27年2月27日承認

平成26年度審議事項

審議年月日	平成27年2月17日	
申請者	整形外科医師	安田 明正
代表者	整形外科医師	安田 明正
共同担当者	統括診療部長	谷戸 祥之
14-19	iPS細胞を用いた悪性高熱症・関連疾患の発症機構の解明と診断法・治療法の開発	
研究の概要	悪性高熱症は、揮発性麻酔薬や脱分極性筋弛緩剤などに誘発される麻酔合併症のひとつであるが、病態生理の詳細を解析した報告はいままでにない。そこで本研究の目的は、悪性高熱症患者の検体から作成した骨格筋細胞・神経細胞・心筋細胞を作製し、電気生理学的特性、細胞生物学的な特性を解析することで、悪性高熱症の病態生理の一端を明らかにすることである。	
判定	継続審議	

審議年月日	平成27年2月24日	
申請者	整形外科医師	八木 満
代表者	整形外科医師	八木 満
共同担当者		
14-20	低侵襲側方進入椎体間固定術施行状況調査・インシデント報告	
研究の概要	日本脊椎脊髄病学会新技評価検証委員会において、XLIF、OLIFの安全な普及に向けて、手術件数及びインシデントの発生頻度とその内訳を明らかにすることを目的に本術式に関する後ろ向きアンケート調査を全国規模で行うこととなり参加するものである。	
判定	承認	

審議年月日	平成27年3月31日	
申請者	整形外科医師	八木 満
代表者	整形外科医師	八木 満
共同担当者	豊田中央研究所 主席研究員	中川 稔章 他2名
14-21	脊柱の動的評価に基づく固定隣接椎間障害の基礎的研究	
研究の概要	脊柱と体幹の動的評価を行い、脊柱変形のため手術を要した患者に発生する隣接椎体の骨折の病態、リスク因子を同定し骨折回避の方法を検討する事を目的とする。	
判定	条件付承認	指摘事を修正のうえ、平成27年4月6日承認